

JICE REPORT 第47号

表紙 未来を見据えたインフラの技術開発

欧米と比較して日本の旅行速度は遅い

日本の都市間を自動車で移動する旅行速度は、欧米諸国と比較して遅い。欧米諸国と日本の代表的な拠点間の閑散時の旅行速度を見ると、意識すべきことは2つある。1つは、日本の閑散時の旅行速度の中央値は、約37km/hであり、アメリカ：約65km/h、ドイツ：約55km/hの半分程度に過ぎないことである。もう1つは、渋滞が解消されても、閑散時の旅行速度がたったの約37km/hで良いのかという点である。

従って、今後の対策も2つの視点となる。従来から進めている①「渋滞時の速度低下の解消」に加え、②信号や右折待ちといった「閑散時の速度低下の解消」についても、あわせて検討を進めることが必要となる。

サービスレベルに着目した道路整備へのモードチェンジ

これまでの日本の道路整備は、渋滞を解消するための対策に注力されてきたが、今後は、渋滞対策に加え、閑散時旅行速度を向上させる対策を確立し、この両輪の下で「サービスレベル（利用者が如何にサービスを楽しむことができるか）」を向上させるための道路整備へとモードチェンジが求められる。

サービスレベルに着目した対策の例

サービスレベルを向上させる対策の一つとして、赤信号により時間ロスが生じる信号交差点を減らすことがあげられる。

表紙の島根県大田市にある大田朝山インターチェンジは、通常の交差点であれば、右折で高速道路に入る際に信号により停止する必要が生じるが、ラウンドアバウト*とすることで停止することなく高速道路へ入ることができる対策例である。

(※交通量の少ない場合などラウンドアバウトが有効)



コンテンツ

JICE REPORT 47号について

研究報告

「粘り強い河川堤防」の技術開発 ～自立型の設計法について～

水防災分野の国際標準形成に向けた取組

混雑時と閑散時の旅行速度向上について

新技術活用促進に向けた取組み ～多様で新たなニーズも踏まえた道路舗装技術～

エリアマネジメントによる公共空間の利活用と周辺のまちづくりへの波及

社会インフラ整備・維持管理に資するスタートアップの技術開発と今後の展望

社会インフラの維持管理における将来の課題と対応の方向性

国土政策研究所 講演会

地域交通のリ・デザインに向けての課題

東京大学大学院新領域創成科学研究科 サステナブル社会デザインセンター特任教授／中村 文彦 氏